

強者の戦略

《シリーズ》もしもセンターの問題が東大

仕様で出題されたら (3)

【解答】

設問A

(1)

Aー企業的穀物農業 Bープランテーション農業
Cー混合農業

(2) 森林を燃やして草木灰にして肥料とし、キャッサバなどのイモ類を栽培する。短期の耕作と長期の休耕を組合せた移動式農業。(57字)

(3) 氷河によるやせ地を土壌改良によって耕地化し、飼料作物を舎飼している乳牛に与えて、酪製品を大都市へ出荷している。(56字)

(4) 移動式テントで生活し、日常は乳製品を食べ、肉は農耕民と穀物の交換や交易品となる。糞は燃料や肥料、建築用補助材に使われる。(60字)

設問B

(1) 人口規模に見合った広大な農地面積を確保できず、また、雨季やサイクロンの影響で農地が浸水してしまい、不足しているから。(58字)

(2) b国では賃金水準の低さを生かして粗放的に生産し、国内需要量を超える生産分を輸出しているが、d国は主食が小麦であり、河川灌漑用水を用いて集約的に栽培した米を輸出に振り向けているため。(90字)

(3) 食の多様化による米余り解消のため減反政策が実施されたから。農業従事者の高齢化などにより耕作放棄地が増加しているため。(58字)

【解説】

秋が深まって来て、いろんな食べ物がおいしくなってきましたね。私の大好きなパンのなかに「チョコフランス」があるのですが、今の時期は「ブルーベリーフランス」が登場しています。とてもおいしいですよ。みなさんも是非食べてみて欲しいと思います。

でも、こんなさわやかな時期に、地中海付近では激動の時代を迎えています。トルコでは東部で大地震が起き、東部に居住するクルド人たちが苦しんでいます。ギリシャは負債の額が大きすぎて、ヨーロ

ッパの不況を深刻化させています。リビアではカダフィ大佐が倒れて、新しい時代を迎えようとしています。

北アフリカの政情の変化を地理的な視点から見ると、2010年の世界的な異常気象につながります。ロシアで異常な高温乾燥が続き、夏前なのに水浴びをしていたり、森林火災が起きたりもしていました。この後、ロシアやウクライナでは小麦の収穫量が減少し、小麦の輸出を禁止する政策をとります。この政策によってダメージを受けたのが北アフリカ諸国です。北アフリカ諸国では足りない小麦をこれらの国からの輸入でまかなっていました。異常気象のおかげで国内で主食の穀物が入ってこなくなると、住民たちの間で生活の困窮に対する鬱屈がたまっています。それが、長年独裁体制を続けてきた政府に対する反乱活動につながり、ついには政権崩壊にいたりました。ロシアの異常気象と、リビアの政権崩壊が有機的に結びついていることは意外であるとともに新鮮な感じもします。これからの世界情勢に要注目です。前置きが長くなりました。そろそろ問題の解説に入りましょう。どうぞ！

設問A

(1) この問題はセンター試験とまったく同じ問題でしたが簡単すぎましたね。きっと間違えた人はいないと思います。

Aは黒海北側からバイカル湖にかけて広がっている**チェルノーゼム**地帯に当たっているので、**小麦を大規模に機械化して栽培している企業的穀物農業地域**です。ロシア・ウクライナ・カザフスタンは小麦の輸出国です。Bは赤道付近の熱帯地域の沿岸に分布しているので、**高温多雨の気候を好む換金作物を栽培するプランテーション農業地域**です。Cはドイツやフランスなどのヨーロッパ地域が主流なので、**食用穀物や飼料作物栽培と家畜飼育を結びつけた混合農業地域**です。

強者の戦略

(2) アの地域は熱帯地域で**焼畑農業**が一般的です。焼畑農業とは、**短期の耕作と長期の休耕を組合せた農業であり、休耕期間後に火入れを行って、植生の除去と地力向上をはかる**点に特徴があります。長期の休耕を行うため、耕地を短期間でかえることになり、住居の移動を伴う場合が多かったのですが、近年では定住化も進んでいます。

話はそれですが、焼畑農業は新たな環境問題も生み出しています。焼畑農業は土地に余裕があり、長期の休耕期間が守られる限りは持続可能な農業です。しかし道路開通などにより人口が集中し、**耕作期間の延長や休耕期間の短縮が生じると、地力が回復せずに土地の荒廃が進み、農業生産が減少します**。また、移住者による農園開発のための焼畑では、休耕期間やその間の植生回復が意識されにくく、それが環境破壊にもつながるため問題視されています。

(3) デンマークの酪農は頻出テーマですね。ある程度述べられる力は必要です。基本的にはヨーロッパ全体の傾向と似ているのですが、**新大陸からの安価な小麦の流入によって農業転換が図られ、酪農を中心とするようになりました**。

デンマークは、もともとの**氷河によるやせ地を土壤改良し、耕地面積を50%を超える程までに増やしました**。耕地率が50%を超える国は入試頻出なので重要です！**デンマーク・ハンガリー・ウクライナ・インド・バングラデシュ**の国名がすぐに浮かぶように覚えておいてください。ちょっと話がそれましたので戻りましょう。**増大した耕地面積の大部分で飼料作物を栽培し、舎飼いしている乳牛に食べさせて乳製品を生産する酪農**が行われています。あと、デンマークの酪農地帯は**大都市に近接している**という点も見逃してはいけません。酪製品は鮮度が重要であり、すぐに消費地に輸送する必要があります。ドイツの首都**ベルリン**、ノルウェーの首

都**オスロ**、スウェーデンの首都**ストックホルム**、フィンランドの首都**ヘルシンキ**に近接している条件は強みになります。さらに付け加えると、**デンマークでは国民高等学校など農業教育制度や農業協同組合が普及しています**。

(4) 意外に遊牧を真っ正面から聞かれると、書きにくかったんじゃないですか？簡単なことを説明するのは難しいですね。

アジアの遊牧民住居は、羊毛でつくったフェルトを張った簡易天幕の住居で、モンゴル語でゲル、中国語でパオ、中央アジアではユルトと呼ばれています。生活はすべて家畜に依存し、乗用・ものの運搬のほか、乳・肉・毛・皮・骨まで利用します。遊牧民は肉を食べているんじゃないかと思われがちですが、そうとも限りません。常に肉を食べていれば家畜の数を維持できなくなるはずですからね。もっぱら**乳製品からのチーズなどを食しています**。肉は貴重なので農耕民と穀物の交換や交易品となっています。「糞」の使い方はある程度は想像がついたと思います。**肥料や燃料**ですよ。もう少し知っている人は**建築用補助材**と答えることができたかもしれません。東大の過去問に「牛糞の独特の利用方法を答えよ」という問題がありました。「牛糞自体の一般的な利用方法も知らないのに独特って!？」とびっくりしますよね。東大も奇をてらった問題を出すもんです。

設問 B

センター試験の問題では米の生産量ぐらいしか示されていませんでしたが、輸出と輸入を含めて改題することにしました。東大特有の比較問題を(2)で入れました。

(1) 米の生産量の上位の国は確実に言えなければなりません。aはバングラデシュ、bはタイ、cは日本、dはパキスタンになります。バングラデシュの国名が分かれば解答しやすくなったはずです。

バングラデシュの人口は1.64億人ですが、面

強者の戦略

積は 14.4 万㎥しかありません。日本の面積が 37.8 万㎥なので、かなり小さいな～と思っていただけだと思います。なので、**耕地面積が小さすぎて人口規模に見合った生産を行えていない**と考えられます。それだけだと何かつまらないので、もう少しバングラデシュ的な内容を思い出してみます。バングラデシュでは**雨季のときやサイクロンの来襲時に、国土のある程度の面積が浸水**してしまいます。この不利な条件も影響して、十分な米の生産量を確保できないということになります。

(2) タイとパキスタンでは稲作の方式が全然違っています。

タイはサバナ気候で湿潤地域なので、稲作自体は簡単に行うことができます。**タイは米の生産費の低さに加え、灌漑の整備、乾季作の増大、国による品種改良、高級香り米の栽培普及などを背景に、世界有数の米輸出国であり続けています。**あと、人口規模がそれほど大きくないことも原因です。右上に日本・タイ・パキスタンを比較した表を載せておきました。タイは日本より人口がだいぶ少ない割に米の生産量が多いので輸出量が多くなるのが分かると思います。

一方のパキスタンは日本より人口が多いのに米の生産量は少なくなっています。普通は米の輸出量は少なくなると思われるのですが、事実はそうではありません。**パキスタンは中緯度高圧帯に覆われている乾燥国であり、国土北部のパンジャブ地方で、やや乾燥気候を好む小麦が大規模に栽培**されています。パキスタンではこの小麦を中心とした食生活や、遊牧生活が一般的で米は主食にはなっていません。なので、全国の国民に食べさせる必要がないので、人口規模はあまり考えなくてもよいということになります。また、米を生産している地域は**インダス川下流地域で海に近いので輸出に便利**です。よって、インダス川の灌漑用水を用いた集約的で

輸出向けの稲作が行われています。

	人口(億人)	米の生産量(万トン)
タイ	0.681	3047
日本	1.270	1103
パキスタン	1.848	1043

(3) この問題文章から c が日本だということが分かります。表だけでは分からなかった人は助かったんじゃないですか？

アジア諸国は総じて人口増加率が高く、増加した人口の食欲を満たすために穀物は増産されていっています。ですので、「減少傾向」となっている国は相当珍しいわけです。

日本では高度経済成長時期に所得が向上し、米や魚以外の肉やパンなどを食べ始め、**食の欧米化**が進みました。すると、どんどん米の消費量が減少して行って**米余り**の状況になりました。この状況を改善させるために政府は、**減反政策**(転作や休耕)を行いました。この一般的な記述だけでもほぼ正解ですが、1990年代以降の農村の話も少し含めて解答を作成しておきます。**農業従事者の高齢化が進み、後継者不足に追い込まれる**ことになります。今まで農地だった面積が荒地地などに変わってきて、**耕作放棄地が増加**しました。この内容もしっかりと頭に入れておいてくださいね。

ここまで読んでくださった方、お疲れ様でした。次回はどのような問題になるかわかりませんが、またお会いしましょう！